

光遍寺新聞



第 1 号

発行所

〒638-0315
奈良県吉野郡
天川村沢原 141
浄土真宗
本願寺派
仏照山
光遍寺

電話番号
0747-63-0638
ホームページ
<http://www.kouhenji.org>

今月の法語

めぐりあいの
ふしぎに
てをあわそう
(坂村真民)



光遍寺新聞ついに創刊!

光遍寺新聞創刊にあたって

かねてから念願でありました光遍寺新聞が創刊となりました。光遍寺の新たな歴史のスタートです。本紙創刊の目的は、常日頃より光遍寺を護持していただいております門信徒の皆様方に『光遍寺の今』を知っていただくことにあります。今お寺ではどんなことが行われているのか、どういう問題があるのか等、全門信徒の方々が光遍寺に関する情報を共有していただくことにより、お寺に対してより一層興味を持っていただける

ようになるのではないかと
思います。そして、一人ひとりが『私のお寺』との自覚を持っていただけるよう努めてまいりますと考えています。

また、本紙が一方的な情報提供の手段として終わるのではなく、この紙面上が光遍寺門信徒の交流の場となるよう様々な企画も考えていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。
(編集長 光遍寺住職 玉井鉄宗)

新役員決定

新役員が決定いたしましたのでお知らせいたします。以下敬称略。

【責任役員】 森田久勝

【総代長】 榎本清七

【副総代長】 森 貞次

【会計・書記】 中西隆司

【仏壮担当】 鹿尾善治

【仏婦担当】 片岡忠志

【運営委員】

【監査】 山本久彦

【監査】 赤井公司

本谷憲一 中森啓雄

赤井正一 森本祥次

水口十男十郎 中西秀彦

水口博幸 福上末次

【仏教壮年会】

【会長】 堀口丈夫

【副会長】 根来群二

【副会長】 赤井清志

【会計】 西本 歩

【監査】 中西隆司

【監査】 樋口 貢

中森啓雄 保中康則

森田治秀 堀井義信

上田 豊 堀井孝真

大谷和男 森田正一

水口勝資 上田 繁

【仏教婦人会】

【会長】 山本照代

【副会長】 赤井弘子

【副会長】 平上ヤス子

【副会長】 片岡洋子

【会計】 水口サカエ

【監査】 前田昭子

【監査】 根来チエ子

【地区役員】

本谷彰子 泉谷 往

岡ヤヨイ 中西節子

吉田和美 水口洋子

水口綱子 糸瀬康子

島中千代枝 森田あき子

横田治代 西本清子

辰巳タカ子

【寺役】

本谷彰子 岡ヤヨイ

南雲々々子 森岡純子

森本敬子 今西由子

水口秀子 山本花子

中西澄代 丸谷悦子

福上芳子 横田治代

福上美祿子 辰巳タカ子

役員の方々にはご苦労をおかけしますが、何卒

よろしくお願いいたします。

なお、光遍寺仏教壮年会、仏教婦人会の会員資格は、「光遍寺門信徒であること」のみです。つまり、光遍寺門信徒の男性は皆仏教壮年会の会員であり、女性は仏教婦人会の会員であります。この機会に周知していただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、旧役員の皆様方におかれましては、前任職往生の後、右も左も分からない未熟な住職のもと、庫裏建設や住職継職法要などの大事業を無事成功させていただき、光遍寺をお支えいただきましたこと深く感謝いたします。ありがとうございました。そしてご苦労様でした。旧役員様の経験を生かして今後とも光遍寺の護持発展のため、ご助言、ご協力いただきますようお願いいたします。

新体制
始動

光遍寺行事予定

(~8月)

6月10日(日)
南組門総仏仕仏婦研修会
(於:塩野 西教寺)

6月23日(土)
法灯の宴
(於:光遍寺本堂)

8月10日(金)~11日(土)
お盆の永代経

8月19日(日)
吉野六組研修会
当番組 吉野南組
(於:天川村山村開発センター)

詳細については後日お知らせいたします。

お知らせ

光遍寺のホームページを開設いたしました。アドレスは<http://www.kouhenji.org>です。光遍寺新聞同様『光遍寺の今』を配信していきたいと思っておりますので、たくさんアクセスお待ちしております。

ちよこっと ほうわ



私達、人間は育てる「もの」によって、育ち方が変わってきます。

オタマジャクシなら、人間に育てられてもカエルにしかなりません、人間は違います。狼に育てられた子供は、狼と同じことをします。人間社会に連れて来られても、人間に馴染まずにストレスで死んでしまうこともあります。いい大人に育てられたら、いい環境で育ったら、いい子に育ちます。そして、人間は、年をとるごとに、今まで見えなかったものや気が付かなかったものに出会うことができます。これは、「仏様に育てられている」のです。

人間の眼(肉眼)は、自分の良いところしか見ないで、他人の非ばかりが見えます。そこには、自分勝手な自分が存在し、みんな「自我の色メガネ」をかけて見えています。そして、自分のメガネにかなった人が「いい人」であり、かなわなかった人が「悪い人」になっていくのです。

これに対し、仏様の眼(仏眼)は、自分の悪いところを見る、つまり自分の非が見えます。仏眼は、わけへだては一切しません。上下・比較・優劣は全くないのです。

仏様に会うことによって、つまり如来様に育てられることによって見えてくる世界が変わってきます。自分の「ものさし」(=ものの見方)でしか、物事を判断しない自分に気付かせていただけるのです。

どんな時にも、どんな場合でも、平等に慈悲を手向け、救ってくださる仏様に出会い、人と比較しなくてもいい世界が見つかるのです。

花祭り・春の永代経法要勤まる

平成一九年四月十四日(土)、十五日(日)に花祭り並びに春の永代経法要が無事勤まりました。布教使には下市阿智賀の尾崎祐正先生が来られました。

仏教壮年会主催により花祭りが十四日午前十時より行われました。子供たちがお釈迦様の像に甘茶をかける姿は微笑ましく、仏様によって育てられていく様子が感じられました。当日は子供たちだけではなく、仏壮・仏婦の方々も沢山お参りしてくださいました。また、朝早くより仏教婦人会の皆様方がちらし寿司と味噌汁を作ってください、花祭り終了後、本堂に机を並べて皆さんでおいしくいただきました。



十四日午後二時から春の永代経法要が勤まりました。永代経法要とは、先達・先祖を偲ぶということ、はもちろんのこと、「先達・先祖を御縁として私が経(教)を頂き未来永代に伝える」という非常に尊い意味があります。布教史の尾崎先生のお話は分かりやすく面白いため、堂内では頻りに笑いがおきいていました。次回お盆の永代経もありしますので、今まで御縁のなかった方も是非一度お参りください。

四年前からお寺の各行事の度にお手伝いをさせていただく機会を得て、この光遍寺の本堂に足を運ぶ事が多くなりました。初めは念珠を両手に合わせ仏様に向かって念仏を唱えるのが気恥ずかしいのが先立ち声も出せなかったのが、今では何の違和感もなく体の中からうっと念仏が出るようになりました。これが仏縁というのでしょうか。又行事の度に大勢の方がお手伝いに来られて一生懸命に奉仕作業をしてくれている姿を見るにつけ、この方々も何等かの御縁でここに集まってこられたのだなあと感じていました。人々は暮らしの中で

**門信徒
広場**
～御縁について～
責任役員
森田 久勝

自分さえ良ければという風潮ですが、この生かされている御縁を大事にしたいです。私も七十年生かされてようやくこの事に気付いたわけです。

皆それぞれの御縁をいただかなければ決して一人では暮らせないことは仏の教えの中でもきっちりと表されております。今現在世の中を取り巻く状況は

それから、この光遍寺にはもっと大きな御縁を門信徒一同いただいております。近年この吉野の山間地では過疎が一段と進み各在所のお寺では住職のいないお寺が増えているような現状です。しかし、当光遍寺はおかげ様で若い住職が家族共々どっしりと腰をすえて護ってくれています。その姿を見るにつけ、これほどありがたい御縁は他になく、このことは声は大にして自慢できます。光遍寺門信徒の皆様、どうかこの住職を中心益々仏縁を深めて下さる事、発刊を記念してお願い致します。

合掌

門信徒広場では、皆様の投稿をお待ちしております。皆様が普段感じておられること(短文で結構です)、俳句、写真など何でもかまいません。住職までお気軽に。

真宗雑学(阿弥陀さんは男でも女でもありません。人間では捉えられない真理が人の姿となって現れてくださっているのです。)